

平成29年度  
教育研究所事業報告



四万十町教育研究所

## 平成29年度

# 四万十町教育研究所 事業報告

## 目次

1. 教育研究活動（研究員の調査研究テーマ） 「ふるさと教育」を推進するための教材の開発・カリキュラムマネジメントの構築 ～ふるさとを愛し志を持ち、地域に貢献できる人材を育てるための 小中9年間を見通した取り組み	p 1
2. 四万十町教育研究会の運営	p 3
3. 学校研究支援	
(1) Q-Uの取り組み	p 4
(2) ドクター（澤田先生）と連携した「いのちの学習」の取り組み	p 5
(3) 校内研修支援	p 6
(4) 人間関係づくりプログラムの取り組み	p 7
(5) 教職員町内めぐり	p 8
4. 教育支援センターの運営	p 9
5. 教育相談活動（教育相談員・SSW）	p 11
6. 研究協力校の取り組み	p 13
7. 四万十教科書センターの運営	p 16
8. 高知県教育研究所秋季連絡協議会の開催	p 17
9. その他の取り組み	
(1) 研修会	p 18
(2) 所内会・全体会	p 20
(3) 教育研究所だより「しまんと」	p 21

## 1. 教育研究活動（研究員の調査研究テーマ）

### 「ふるさと教育」を推進するための教材の開発・カリキュラムマネジメントの構築

#### ～ふるさとを愛し志を持ち、地域に貢献できる人材を育てるための

#### 小中9年間を見通した取り組み～

研究員 中川 千穂

#### 【テーマ設定の理由】

人口減少が深刻化するなか、ふるさと四万十町の先人や郷土の歴史、自然や伝統、歴史、文化、産業などの地域資源を生かした学習及び地域への積極的な参加や体験をさせることにより、子どもたち一人一人がふるさと四万十町への誇りと愛着を持ち、地域に貢献できる人材育成を目指すとともに、自分たちの住む地域にある課題に向き合い、地域の一員として地域に貢献したり、地域を大切にしたりする心を培っていく。

このことにより、「確かな学力」「豊かな心」のバランスの取れた子どもたちの育成を図ることができると考え、上記の調査研究テーマを設定した。

#### 【調査研究の概要】

##### 1. アンケートによる実態把握

自分の住んでいる地域についての児童生徒の意識、小学校教員については日頃の指導方法についてアンケート調査を実施し、分析を行った。

##### 2. 小学校社会科、「わたしたちのまち四万十町（副読本）」、学習指導要領の関連一覧表の作成

##### 3. 「身近な地域の様子」を教材とし、中学校へとつながる小学校教材「ふるさとFuture」の開発

#### 【成果と課題】

##### ・成果

教材を開発するにあたって、全小中学校の児童生徒、小学校教員に対してアンケートによる意識調査を行ったことは、調査研究を推進するうえで大いに参考となった。意識調査の分析では、自分の住んでいる町や地域に対して、肯定的な捉え方をしている児童生徒が多かったことが分かった。これは予想されていたことではあったが、一方では自分の将来と重ね合わせた時に「地域で暮らしたいが、自分のなりたい職業がない」と回答した生徒もいた。この調査結果から考えられることは、小学校の段階から地域教材などを取り入れ学習を進めているが、地域についての知識・理解については、さらに質を高めていく必要があること、また学習の基盤となる能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）の育成も必要であると考えた。

こうした実態を踏まえ、授業の中で「習得・活用・探求」のバランスを考えた教科横断的で、小中の接続的な学習につながるような教材を作成することとした。教材は、自分たちの身近な地域を取り上げ、学習への意欲や関心を高めるように工夫をした。そして、中学校との接続を考えた教材を作成することで、その学年での付けるべき力を明確にできたことが成果として挙げられる。作成した教材は、次期学習指導要領も踏まえつつ、評価と一体化させ、教師自身の指導方法を検証できるものとした。また評価問題だけではなく、学習の一助となる「学習シート」も作成し、単元の見通しを持たせることができるようにした。

合わせて、学習の基盤となる能力を育成するために小学校社会科、『わたしたちのまち四万十町（副読本）』、学習指導要領との関連一覧表を作成した。これは、学習内容や習得すべき知識や目標を明らかにすることで、より計画的に授業が行えるようにしたものである。

- ・課題

教材を作成している過程で単元計画の必要性を感じた。研究の方向性では、『知の構造図』としていたが、作成には至らなかったため、来年度はより具体的に、単元ごとに付けるべき力を明確にし、どのような学習活動を行うことで、目標が達成できるのかを示したものを作成したいと考えている。また、地域の先人についても取り上げ、「ふるさと教育」につながる研究を推進していきたい。

## 2. 四万十町教育研究会の事務局運営

### 【実施時期】

期 日	内 容	備 考
4月 3日	校長会（説明、理事選出）	役場本庁
4月13日	第1回理事会（部会調整・総会に向けて協議）	改善センター
4月26日	四万十町教育研究会総会・部会（組織作り）	窪川中学校
5月23日	第2回理事会（計画書・予算書の内容確認） 第1回役員会（計画書・予算書の具体の説明）	改善センター
6月14日	第3回理事会（統一日に向けての協議）	改善センター
7月26日	統一日（教育関係職員研修・各部会）	四万十会館他
11月16日	統一日（研究授業中心）	町内各会場
11月27日	第4回理事会（2学期統一日・まとめについて協議）	改善センター
1月24日	第5回理事会（提出書類・取組総括について他） （平成29度の総括・平成30年度に向けての協議）	改善センター
2月26日	監査（補助金実績報告）	改善センター

### 【目的・概要】

四万十町全体の組織「四万十町教育研究会」として新体制が発足し今年で11年目になる。

この研究会は、「四万十町の学校教育振興を図ることを目的とし、四万十町教育委員会指導のもと自主的な運営を図る」ものである。教育研究所は、教職員研修の助成を業務に含む機関としてその運営を支援している。

教職員全員が17部会のいずれかに所属して活動を行っている。4月には総会と各部会研修（組織づくりと年間計画など）、夏には教育関係職員研修と講師を招聘しての講話・講習などの各部会研修、11月には、研究授業を中心とした部会研修を年間計画にそって行っている。11月の研究授業は、小中学校教員の貴重な授業交流、相互研修の場となっている。

### 【成果と課題】

11年目となる教育研究会の運営については理事会を中心に行っており、役員会も開催することで、部会長を通して部会からの意見や部会員の考えを聞くことができている。今年度になって、より効率的な運営を行うために、役員会の開催を5月のみとし、各部会の報告書をもとに総括等は理事会と事務局で行った。また、各部会での活動記録や資料等は、ファイルにまとめられ、教育研究会共有の財産として研究所に保管するようにしている。部会で購入した書籍については文書で各校に周知し、活用している。

各部会の活動によって、小中の連携を図ることができ、授業研究等の一助となっているが、部会によって人数の偏りがあるため、平成27年には、一部の部会の統合再編を行った。しかしながら、改善されたところまではいかず、現在は、特別活動部会が休止状態となっている。

### 【今後の取り組み案】

高知県教育センターの研修の充実や町教育委員会の校内研究支援事業等、自主的に学ぶ機会が広がっている。また、受けなければならない研修会や参加する研修会が多くなってきていることを考え、研修会精選の意味を含め、長く続けてきた町教研の役目は十分果たしたものと考え、廃止の方向で一旦休止を行い検討したいと考えている。来年度については休止の方向であるが、理事会、教育委員会で検討していく予定である。

### 3. 学校への研究支援

#### (1) Q-Uの取り組み

##### 【実施計画】

期 日	内 容	備 考
4月3日	校長・教頭合同会で実施のお願い	
4月11日	各学校の注文書の回収	全小中学校
5・6月	全小中学校で1回目実施	全小中学校
9月～12月	全小中学校で2回目実施	全小中学校
2月	希望の学校で3回目実施	希望校のみ
3月	実績報告・まとめ	

##### 【目的・概要】

Q-Uは、「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」と「いごちのよいクラスにするためのアンケート」からなり、児童生徒の心を理解するための調査方法の一つである。教師が児童生徒の個々の状態と学級の状態を理解するための客観的で多面的な資料となりうるものであり、また、学級集団づくりや児童生徒理解、教育実践の効果測定、不登校予防、いじめの発見・予防、学級崩壊の予防において活用され効果が期待できるものである。

本町が、Q-Uに取り組み始めて11年目を迎え、今年度も全小学校・中学校で実施することができた。対象は、小学校3年生以上としているが、希望があれば小学校1・2年生も実施することが可能である。年間2回、希望がある学校には、3回目を実施している。

##### 【成果と課題】

Q-Uの活用については、実施データを細かく分析し全職員の資料として、校内研修などでの活用、生徒の個人面談の資料として活用するなど、各学校での取り組みが進み、生徒理解につながっている。

教育研究所でも、実施データは簡易プロット表を作成して蓄積し、全町の児童生徒の傾向を把握している。また今年度は「人間関係づくりプログラム」のなかで、「今後の学級経営に活かすQ-U講座」として、Q-Uの結果を学級経営に活かせる実践的な講習を行った。

各校から出されたデータをもとに町内の傾向を分析し、どのように学校の取組に反映させていくのが今後の課題である。

##### 【今後の取り組み案】

学校現場では、チーム支援の重要性が言われているが、Q-Uの効果的な活用については、各学校の取組に任せている面がある。町内の学校全体で効果的な活用ができるような研修も今後検討していきたい。

## (2) ドクターと連携した「いのちの学習」の取り組み

### 【実施内容】

#### ○「いのちの学習」実施校

- ◆川口保育所
- ◆川口小学校
- ◆影野小学校
- ◆大正中学校
- ◆認定子ども園たのの
- ◆田野々小学校
- ◆仁井田小学校
- ◆窪川小学校

### 【目的・概要】

研究所では、「いのちの学習」に取り組む学校や保育所に、教材の貸し出しや授業への協力などの支援を行なっている。

「いのちの学習」の目標は、

- ① いのちの大切さについて学ぶ。
- ② 友達の気持ちを考えることのできる共感性を育てる。
- ③ このプログラムを通して家族の絆を大切にすることを養う。

である。幼児期・児童期の早い時期にいのちの教育をすることで、いのちに関して関心を持ち、いのちを大切にしていこうと心育を育んでいこうとする取り組みである。

学習では、お腹の中の赤ちゃんの心音を聞いたり、エコーの画像を見たり、赤ちゃんに触れ合うなど、成長を観察したりする体験的な活動をしている。また、その活動と合わせて、家族から話を聞くことや絵本の読み聞かせや紙芝居、胎児人形、赤ちゃん人形等を使った学習も行っている。

### 【成果と課題】

年間を通して定期的に「いのちの学習」に取り組んでいる学校や昨年度は、実施していなかったが今年度から始めた学校など、少しずつ取り組みが広がっている。昨年同様、「いのちの学習」に取り組む学校への教材の貸し出しも多かった。研究所としては、授業参観や学習中の生徒へのサポートとして関わらせていただいた。

課題としては、学習内容の充実や授業支援の在り方を検討し、各校へと広げていく。

### 【今後の取組案】

各校の取り組みなどの情報発信や学習を行う際の指導案の提供など、学校が取り組みやすい状況をつくっていききたい。

### (3) 校内研修支援

#### 【実施時期】

窪川小学校	校内研修（公開授業）	12/13
田野々小学校	校内研修（公開授業・講話）	11/30
東又小学校	体験入学	2/7
北ノ川中学校	校内研修（公開授業・協議・講話）	10/20
窪川中学校	校内研修（公開授業・講演・研修報告・体験入学）	6/23、11/22、1/16

○四万十町研究主任会 8/24

#### 【目的・概要】

本町の教育委員会では、校内研修を活性化するために校内研究支援事業を行い、学校独自で使える研修費の補助を行っている。そこで、研究所でも、各学校の校内研修に参加し、研修が活性化するように協力・支援を行った。

基本的には、校内研修を公開している学校を中心に研修会に参加し、ともに研究する仲間の一人として参加する形とした。

#### 【成果と課題】

今年度は、5校の小中学校の校内研修や学校行事に参加させていただいた。また、学校への支援の一つとして、学校教育課と共催の研究主任会では、全国学力・学習状況調査の結果分析について報告し、小中が連携して取り組むべき課題や町内の児童生徒の傾向について示すことができた。本年度、授業への参観だけではなく、学校行事への参加や他県の取り組みについて研修報告できたことは、学校支援の新しいあり方を考える契機となった。

課題としては、本年度は、高知県教育研究所秋季連絡協議会の開催担当であったため、準備等もあり、校内研修への参加を十分にすることができなかった。

#### 【今後の取り組み案】

今後も、公開している校内研修や学校行事などには、できるだけ参加させていただき、学校の状態を知ると同時に、情報発信も行いたい。また小中連携やそれぞれの持つ課題に沿った取り組みの支援ができるように取り組んでいきたい。

#### (4)「人間関係づくりプログラム」の取り組み

##### 【実施時期】

期 日	内 容	備 考
6月29日	第1回：今後の学級経営に活かすQ-U講座	半日講座
8月23日	第2回：不登校場面事例ワークショップ	1日講座
12月27日	第3回：特別支援のスキル講座（午前） アクティブ・ラーニングのためのコーチングスキル(午後)	1日講座

##### 【目的・概要】

四万十町では、Q-Uに全町で取り組むなどして、子ども達の人間関係づくりに力を入れている。その一環として、よりよい人間関係づくりのサポートを目指して本事業を実施し、今年度で7年目となる。また、子どもたち同士の人間関係づくりには、まず教職員間の人間関係づくりが不可欠であり、このプログラムを通じて校内の教職員同士のつながり、また、参加した町内外の教職員同士のつながりが深まることもねらいとしている。

一貫した指導を受けるためにパーソナルコーチの松井浩之氏を講師として招聘した。

##### 【成果と課題】

1回の講座の平均参加者数は4名であった。少人数ながらも、Q-Uの見方やアクティブ・ラーニングのためのコーチングといった今の学校現場に求められている講座を企画した。参加者からは、「自分の取り組みたいことが明確になった」、「職場で今の研修を共有したい」などの感想があり、実践的な内容となっていたこともあり、好評であった。

本年度、できるだけ現場の先生方が参加しやすい日時を設定し、講座を実施した。また校長会や研究所たよりで参加を呼び掛けたが、昨年度より参加者数は減少し、課題となった。

##### 【今後の取り組み案】

来年度の実施については、講師の都合で開催が難しくなっている。また参加者数も少なく、小中学校での実践や活用の面での広がりがあり期待できないため、他の研修会と兼ねるなど、せつかくの研修が多く教職員の資質向上につながるように、研修会の内容や規模などの検討を行っていく。

## (5)教職員町内めぐり

### 【実施時期】

7月31日 四万十町内教職員（16名参加）  
改善センター → 松葉川温泉 → 一斗俵沈下橋 →  
高岡神社（五社） → 家地川ダム → 道の駅「四万十とおわ」 → 無手無冠 → ウェル花夢（四万十オートキャンプ場） → 久木ノ森風景林 → 轟公園（石の風車）  
窪川  
十和  
大正方面

### 【目的・概要】

四万十町の自然や歴史を知ることを通して、地域に対する理解を深め、地域を愛する心を育むことを目的として実施している。対象は、今年度四万十町小中学校転入の教職員及び希望する教職員とした。

以前、参加者が少ないということで中止となっていたが、平成25年度より再開した。四万十町に勤務している教職員の方に少しでも地域を知ってもらうことが一番のねらいである。四万十町内は広範囲に及ぶために、校区外の地域については、普段なかなか見学する機会も少ない。そこで、1日の見学では大正・十和・窪川地区をそれぞれ見学できるようにした。

### 【成果と課題】

今年度小中学校に転入してきた教職員で参加をしたのは、5名であった。募集期間内に参加を申し込んだのは1名で、後は個別に声をかけての参加であった。新しく町内に転入したALT3名も参加し、計画した行程を見学することができた。参加者からは、「子どもたちに地域を教える前にまずは自分が地域を知らないといけないと改めて感じました」、「この広い町内には、様々な歴史文化が培われてきたことや人々の営みが分かった」、「自然豊かで、地域の魅力を感じた」など好評であった。しかし、参加者人数が少なく、今後の課題となった。

### 【今後の取り組み案】

来年度以降も継続して取り組んでいきたいと考えているが、日程調整、行程の工夫などを行っていき、少しでも参加者を増やしていきたい。



【家地川ダムでの講話の様子】



【久木ノ森風景林】

#### 4. 教育支援センターの運営

##### 【目的・概要】

- ◆心理的・情緒的・身体的理由で不登校状態に陥った児童生徒に対して、相談及び個別指導、集団指導を行い、学校生活への復帰及び自立を図ることを目的とする。
- ◆義務教育終了後19歳をめどに、進路等が決まっていない者等に対して、相談及び進路情報の提供などを行い、社会への参加及び自立を図ることを目的とする。
- ◆教育支援センターでは以下の指導目標に基づいて、子どもの成長や課題に合わせて個別に支援を行い学校復帰を目指す。

(指導目標)

- こころの安定を図る
  - ・教育支援センターが通室生にとって安心できる居場所となるように支援する
- 規則正しい生活リズムを身につける
  - ・教育支援センターに通室してくることで生活リズムが作られるように支援する
- 他人の気持ちを考え、認め合えることができる
  - ・人と関わったり、つながったりする楽しさを感じられるように支援する
- 様々な活動を通して自信を持つことができる
  - ・子どもたちが得意な活動をみんなで振り返る

##### 【通室生の推移】

届受理月	かげつ	たのの	とおわ
4月	・小学校6年(男)	・中学校2年(女)	・中学校2年(男)
7月	・中学校3年(女) ・中学校2年(男)		
10月	・中学校3年(女) ・中学校3年(男)		
2月	・中学校1年(女)		

##### 【本年度の活動の概要】

「かげつ教室」

小学生1名の在籍からスタートしたが、年度末までに6名の在籍となった。定期的に通室できている生徒はおらず、不定期に来室する生徒への対応や家庭訪問での対応が主となっている。クリスマス会には窪川中学校の3年と1年の女子生徒2名が参加。研究所の職員や中学校からも7名の先生方に来ていただき、大勢の大人に囲まれながらも生き生きと活動する姿を見ることができた。それぞれの児童生徒が所属している学校と情報を共有しながら、支援センターとしての活動を進めるようにしている。

「たのの・とおわ教室」

在籍している2名については通室してはならず、学校と情報を共有しながら教育相談員・SSWが家庭訪問による家庭の支援をおこなっているが、支援センターとして定期的に訪問することはできていない。男子生徒については中学校が定期的な訪問を繰り返す中で、家庭との意思の疎通ができており、一定の学習支援もなされている。女子生徒については2学期からはほぼ登校できている状況にあり、本人や家庭との対応は学校が中心になって行ってくれている。

### 【次年度への課題】

小学校・中学校共に個々の生徒の学級担任や支援コーディネーター等と情報を共有しながら家庭訪問等を行っているが、支援センター独自の働きかけによって教室に来ることができるまでにはなっていない。特に中学生については、学級担任が教室に連れてきてくれることが多く、学校の負担感が大きいのではないかと心配している。学校の手を煩わせることなく支援センターへ定期的に通室することができるような効果的な働きかけをしなければならない。

10月以降に通室届が出された中学生については、いずれも中学校からの働きかけによって教室に来てみたり、中学校から連絡をいただいて家庭訪問に同行したりする中で通室届を出すこととなったものであり、学校から気軽に情報を出してもらえようような関係を作り出して行くことが大きなポイントであるように思われる。また、通室届の有無にかかわらず、別室登校の状態にある生徒にとっても「安心して過ごすことができる居場所」として活用してもらえようようにして行く方向でも考えていきたい。

## 5. 教育相談活動（教育相談員・SSW）

### 【目的・概要】

学校だけでは、対応が困難なケースに対して、主に児童・生徒、保護者、学校、地域などからの相談を受け、学校との調整や家庭環境の調整を行う。そして、必要に応じて家庭訪問をし、不登校等の子ども達の支援にあたり、多方面からの支援が必要な場合は関係機関との連携を行い対応する。また、義務教育終了後、進学も就労もしていない子ども達の自立を目指した支援を教育支援センター・教育相談員・SSWとで協力しながら行い、保育所や認定こども園（以下「保育所等」という。）とも連携して小学校への円滑な入学へ繋げる。

### 【活動内容】

教育相談員2名、SSW2名が窪川地区と大正・十和地区を分担して相談活動を行っている。

不登校の児童・生徒については、学校、支援センターと連携し、家庭訪問等を実施している。また、子ども達の状況により学校と相談し、「かげつ」「とおわ」「たのの」の各教育支援センターと繋げるようにしている。保護者に対しての支援としては、SSW・相談員による教育相談を実施し、支援、助言等を継続している。

義務教育終了後の子どもへの支援については、家庭訪問等で関わりながら進路や就職に向けての相談や情報提供などを行っている。

SSWによる就学前児童の支援については、保育所等と連携して円滑な入学に繋げるよう心掛けている。気になる子どもについての相談を受け、発達障害などが疑われる場合は、巡回相談や教育相談に繋げている。また、発育の状況や家庭に支援が必要な場合は、関係機関と連携し対応している。ドクターとの連携においては、医療的な立場から主に療育上の問題について、指導・助言をもらうようにしている。

### 【成果と課題】

不登校のケースについては、学校との連絡会・支援委員会の中で情報交換を行い、具体的な支援方法等を協議して取り組んできたが、一時期に学校に登校した例はあるものの、学校復帰までは至っていない状況である。学校との連携はできているが、保護者との繋がりが弱く今後、検討すべき課題である。義務教育終了後の生徒については、地元就職し辞めずに頑張っている者もいる。また、引きこもりの者については、家から出れない状態から変化が見られるようになった者もいるし、家に入ってゲーム等で共に遊べるようになり、今後へと繋がりが出来ている者もいる。支援対象や関係機関に広がりが見られ、支援の幅を広げることができたことは一つの成果であった。就学前の子どもについては、保育所への訪問や保育士からの相談を通して、円滑に小学校へ繋げるよう関係機関と連携することができた。

### 【今後の取り組み】

不登校・引きこもりの状態に一度なると復帰までになかなか時間がかかり、難しくなってくる。そのような状態にならないように事前に手を打ち、予防対策が必要に思う。また、何らかの問題を抱えている家庭が多く、保護者の支援が必要だと感じる。「子ども食堂」を今年実施したが、今後は社会福祉協議会と協力して継続していく予定である。「所内ミーティング」は、支援センター・SSW・相談員が連携し、情報を細かく共有する場として月一回のペースで継続したい。来年度は、さらに細かい支援ができるよう、関係機関と連携していきたい。

(窪川地区)

月	相談	学校訪問	家庭訪問	巡回	その他	備考
4月	2	11	1	8	3	
5月	2	10	3	7	0	
6月	0	0	6	0	3	
7月	1	12	6	9	2	
8月	0	0	5	10	0	
9月	1	11	4	4	2	
10月	0	0	0	8	2	
11月	0	1	5	7	0	
12月	1	0	3	3	2	
1月	1	2	6	8	0	
2月	0	0	1	2	1	
計	8	47	40	66	15	

(大正・十和地区)

月	相談	学校訪問	家庭訪問	巡回	その他	備考
4月	2	9	2	0	1	
5月	0	4	4	2	1	
6月	1	5	7	2	0	
7月	0	3	4	1	1	
8月	0	6	6	5	0	
9月	0	7	3	0	0	
10月	0	1	3	0	0	
11月	0	11	3	0	0	
12月	1	3	6	0	2	
1月	2	3	5	1	0	
2月	0	1	2	2	1	
計	6	53	45	13	6	

※相談は、来所・電話相談を含む。

## 6. 研究協力校

### 【目的・概要】

教育研究所では、四万十町の教育振興及び児童・生徒の基礎学力の向上定着等、健全なる成長のために研究等を行う団体に対して、「研究協力校」として業務を委託している。

今年度は、以下にあげる2校を「研究協力校」として業務を委託した。

学校・団体名	研究業務	会長
NIE教育推進研究会	NIE教育の推進	上田 雅子（東又小学校）
学力向上プロジェクトチーム	学校経営に関する研究	児玉 祐二（大正中学校）

### 【実施内容】

#### ◎「NIE教育推進研究会」（東又小学校）

研究テーマ	「自ら課題を見つけ、主体的協働的に学ぼうとする児童の育成」～NIE活動を通して～
研究概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. NIE 研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・NIE アドバイザーによる校内研修（年間3回）</li> <li>・NIE 全国大会（名古屋大会）に3名参加し、研修報告会の実施</li> <li>・学校新聞づくりコンクールに向けた指導、助言（2回実施）</li> </ul> </li> <li>2. NIE を取り入れた授業研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年1回実施、年間7回実施（指導案検討と事後研）</li> <li>教科は国語、道徳、音楽</li> </ul> </li> <li>3. NIE 推進校の発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月、2月に実施本校の研究の様子を発表</li> </ul> </li> <li>4. NIE タイムの実践</li> <li>5. 道徳・英語科の新設に伴う校内研究</li> </ol>
成果と課題	<p>&lt;成果&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. NIE 研究に関して <p>NIE 推進校として2年目となり、今年度はNIE タイムを帯び時間にとって毎日実践した。その結果、児童の新聞への興味関心が高くなり、NIE タイムを楽しむようになった。NIE タイムで世の中のことや政治のことをみんなで話し合いたいとか、記事をスクラップしたいとか（高学年）、記事でクイズを作ってみんなで学習したい、漢字やひらがなカタカナ探しをしたい（低学年）、という意見が増えた。</p> <p>また、本校の課題であった、「読む」「書く」力については、「読む」「書く」への抵抗感が少なくなり、読解力・表現力は少しずつであるが向上している。</p> <p>先生方が、新聞をどの教科にどう取り入れるか考えるようになり、カリキュラムマネジメントの意識が高まり、工夫された授業が見られるようになった。</p> </li> <li>2. 道徳・英語化の研修に関して <p>来年度から小学校で先行実施される、道徳・英語について、道徳推進教諭や英語の外部講師を招聘して研修を行った。具体的な授業のイメージができ、4月からの実施に不安が少なくなった。また、来年度から活用できる外国語の資料を購入することで、スムーズな実施が図れる。</p> </li> </ol> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>今年度は、外部から講師を招聘する機会が少なかったため、今後は、外部の講師招聘に</p>

	<p>努め、研修を深めたい。</p> <p>読解力・表現力の育成は、すぐに効果が表れにくい。今年度のように全校が同じベクトルで実践する体制が今後も必要である。</p> <p>来年度もNIEについての研究を継続したいが、幾社もの新聞を購入することができなくなるので、その点が課題である。</p>
--	--

◎「学力向上プロジェクトチーム」(大正中学校)

研究テーマ	「校内組織で取り組む学力向上」
研究概要	<p>①学力向上のアプローチとして、校内研究組織の2研究部会(授業づくり部・仲間づくり部)とは別に、「大正中学校学力向上プロジェクトチーム」を編成した。</p> <p>②校務分掌、研究部会、学年の枠を超えた、「チーム学校」として学力向上に特化した取り組みを進めた。</p> <p>③「これ単検定」の実施、「加力補習へのTTサポート」といった具体的な実践を積み重ね改題改善につながる定量的な成果を目指した。</p>
成果と課題	<p>&lt;成果と課題&gt;</p> <p>①「これ単検定」の実施。「これ単」とは高知県教育委員会より配布されている英単語集のこと)本年度からの新たな取り組みとして、英単語検定を計画した。プレ検定と本検定を隔週で設定して行った。検定の流れは、検定準備(検定用紙。広報)→検定実施(1月末現在14回実施)→採点記録→集会表彰となっている。</p> <p>日々英単語に触れさせることで、従前より行ってきた帰り学活前の「学習タイム」とともに、学習内容の定着、基礎基本の徹底の機会として位置づけることができた。検定合格という目標に向けて、向上心をもって家庭学習に取り組む生徒も増えてきている。また、各学年のプロジェクトチームの教員が取り組みの中心になることで、英語科教員への負担も軽減できている。また、集会でも担当教員が「学力向上プロジェクトチーム名」で表彰を行っており、学校全体で英単語に取り組んでいる意識をもたせることもできた。特に英語が苦手な学年では、自学ノートとは別に英単ノートを家庭学習に加えて取り組んでいるさらにそのノート点検も学年のプロジェクト教員が行うことができています。</p> <p>②例年は五教科教員や3年学級担任のみで実施してきた加力指導(休業中加力補習・放課後進路自習支援)において、教科、学年関係なく、TTサポートとして、学力向上プロジェクトチームの教員を配置し、効果的な加力指導を行った。五教科以外の教員も「学力向上」をより意識することにもつながった。また、複数で学習指導、生徒支援を行うことで、「質問しやすい」、「わかりやすい」など、生徒にも肯定的に捉えられており、効果的な加力指導を進めることができた。3年生の7時間目の加力補習へのサポートは十分ではなかったが、7時間目終了後に図書室や教室で新たに購入した「進路加力用参考書」(学級備え付け)を活用して自主的に学習する3年生をプロジェクトの教員が支援することができた。</p>

**【成果と課題】**

今年度も昨年度に引き続き、「研究協力校」を2校にしぼった。しかし、学校への取り組みに対して十分な支援ができなかったことが課題である。来年度は協力校の2校と連携を図るよう努める。

**【今後の取り組み案】**

来年度も2校にしぼって「研究協力校」の課題に沿って、できる限り協力しながら進めていきたい。

## 7. 四万十教科書センターの運営

### 【運営要項】

- 設置場所・・・「四万十町農村環境改善センター」の一室
- 開室・休室及び閲覧時間
  - 開室日・・・・・・月曜日～金曜日
  - 休室日・・・・・・土・日曜日、祝祭日、12月29日～1月3日
  - 閲覧時間・・・・・・午前9時～午後5時
- 貸し出し期間・・・10日間を限度とする
- 教科用図書展示会・・・文部科学省の告示により決定  
(今年度開催期間：平成29年6月16日～6月29日)

### 【目的・概要】

教育関係者の教科書研究の便宜や一般の方々への情報公開の一環として、平成24年1月4日より四万十町教育研究所で企画・運営・管理を行っている。

主な業務内容としては、教科用図書の貸し出しと教科用図書展示会の開催である。今年度も昨年度に引き続き、年度初めの校長・教頭合同会において、研究所の業務の一環として「四万十教科書センター」の運営のことをお知らせした。

また、教科用図書展示会は平成29年6月16日から2週間開催したが、期間が限られていたこともあってか、外部からの利用者は少なかった。

### 【成果と課題】

今年度も、年度初めから各校に教科用図書の貸し出しについて周知した。展示会の開催期間中は、閲覧や貸し出しの要請はほとんどなかったが、つなぎ教材の作成のために小学校から中学校の教科書を、中学校から小学校の教科書の貸し出し要請があり、授業研究やカリキュラムづくりに活用された。また、小中学校以外では公設塾の講師の方からの利用が数回あった。今後も活用してもらえるものと思われる。しかし、教育関係者以外の利用は見られず、情報の発信に工夫が必要だと思われる。

### 【今後の取り組み案】

少しでも利用者が増えていくように、情報の発信について工夫をしていきたい。

## 8. 高知県教育研究所秋季連絡協議会の開催

### 【開催要項抜粋】

- 1 目的 高知県教育研究所連絡協議会の全体研究テーマ「力のある学校づくりを目指した教職員の実践的指導力の向上」について研究協議を行い、加盟機関相互の連携を深めるとともに、学校教育の資質向上に資することで、各加盟機関の事業の充実を図る。
- 2 主催 高知県教育研究所連絡協議会 四万十町教育研究所
- 3 期日 平成29年10月31日（火）、11月1日（水）
- 4 会場 第1日 四万十町立窪川中学校(四万十町香月が丘8-18) TEL:0880-22-0020  
第2日 四万十町農村環境改善センター（四万十町榊山町3-7）TEL 0880-22-3287
- 5 日程

【第1日目】 公開授業・全体会：窪川中学校

研究テーマ「確かな学びを育む授業づくり

～ユニバーサルデザインによる学びの創造～

00 12:40 13:05 13:20 13:25 14:15 14:30 15:10 16:40 17:00  
18:00 20:00

受付	無言 掃除	移動	公開授業	移動	全体会（多目的室）					情報交換会
					開 会	学校 説明	講 演	質 疑 応 答	閉 会	

《講 演》

演 題 『一人一人の確かな育ちのためにできること  
～ユニバーサルデザインがめざすもの～』

講 師 高知県教育委員会事務局 特別支援教育課 福富 博紀 指導主事

【第2日目】 全体会・分科会：四万十町農村環境改善センター

9:00 9:30 9:40 10:10 10:25 11:50 12:00

受付	開 会	全体会	休 憩	分科会	閉 会
		四万十町教育研究所 の取組		・所長部会 ・所員部会	

会場：全体会及び所員部会（農村環境改善センター 1階 多目的ホール）

会場：所長部会（農村環境改善センター 2階 大会議室）

○1日目：参加者：70名

○2日目：参加者：78名

## 9. その他の取り組み

### (1) 研修会

期 日	内 容	備 考
4月14日	高岡地区市町村教育委員会連合会定例総会・部会総会	須崎市立市民文化会館
4月20日	四万十町生活困窮者支援ネットワーク会議	四万十町役場
5月1日	指導主事研修会	高知県教育センター分館
5月8日	教育支援センター連絡協議会	高知県教育センター分館
5月12日	第1回 高知県教育研究所中西部地区連絡協議会	農村環境改善センター
5月17日	高知県教育研究所春季連絡協議会	高知県教育センター分館
6月1日	第2回 高岡地教連 教育支援部会研修会	土佐市立USAくろしおセンター
6月2日	第1回 教育相談講座 II	高知県教育センター分館
6月8日	第1回 教育相談講座 I	高知県教育センター分館
6月10日	教育カウンセリング実践講座	高知大学
6月11日	第1回 子育て講演会	高知県教育センター分館
6月21日 ～22日	高岡地教連 学校教育部会 県外視察研修（京都市）	京都市立藤ノ森小学校 京都市立藤森中学校
6月22日	若者学びなおしと自立支援事業地区別連絡会	須崎市立市民文化会館
6月23日	S S W活用事業研修協議会	高知県立ふくし交流プラザ
7月8日	Q-Uセミナー	高知大学
7月19日	高知家の子どもの居場所づくりネットワーク会議	高知県立ふくし交流プラザ
7月20日	若者はばたけプログラム活用研修会	高知県立青少年の家

7月21日	第3回 高岡地教連 教育支援部会研修会	津野町総合保健福祉センター
7月27日	佐川町虐待防止研修会	佐川町桜座
8月2日	仁淀川町教育研究会夏季研修会	仁淀川町立中央公民館
8月3日	思春期保健検討会	四万十町役場
8月4日	第2回十川中学校区連携教育推進連絡会	四万十町立十川小学校
8月8日	S S W活用事業グループスーパービジョン	中土佐町立文化館
	ユニバーサルデザインによる学校づくりシンポジウム	高知県立県民文化ホール
8月22日	四万十町道徳教育推進協議会	四万十町役場
8月24日	相談支援体制の充実に向けた連絡協議会	須崎市立市民文化会館
8月25日	次世代型教育推進セミナー ～アクティブラーニングについて考える～	サンピアセリーズ
9月20日	第4回 高岡地教連 教育支援部会研修会	梶原地域活力センター
9月27日	つながるフェス～ひきこもりミニシンポ&交流会～	男女共同参画センターソーレ
10月2日	第2回 ひきこもりに関する研修会	幡多福祉保健所
10月3日	第2回 教育相談講座 II	高知県教育センター分館

## (2) 所内会・全体会

### 【実施時期】

月・日	会の種別	場 所	月・日	会の種別	場 所
4月6日	全体会・所内会	改善センター	11月15日	全体会・所内会	改善センター
5月1日	全体会・所内会	改善センター	12月6日	全体会・所内会	改善センター
6月6日	全体会・所内会	改善センター	1月10日	全体会・所内会	改善センター
7月13日	全体会・所内会	改善センター	2月9日	全体会・所内会	改善センター
9月7日	全体会・所内会	改善センター	3月16日	全体会・所内会	改善センター
10月10日	全体会・所内会	改善センター			

### 【目的・概要】

所内会では、研究員の研修や調査研究、教育支援センターの運営等の報告を行い、情報の共有化を図るとともに各事業に対して検討を行う。所長が少年補導センター所長を兼ねており、少年補導センターを含む全体会と所内会を月1回開催している。

### 【成果と課題】

全体会は定期的に行うことができた。全体会で話し合う大まかな内容は、以下の通りである。

日程 9:30～10:30…少年補導センター所内会 10:30～11:00…全体会 11:00～12:00…研究所所内会 ※兼務である所長が全ての会に参加するため 11月より時間帯を午後からに変更 大正方面からの参加もあり、できるだけ時間を有効に使えるようにするため	全体会の流れ 1. 月行事の確認 2. 所内報告 3. 今後の取り組み 4. その他
---	--

所内会では教育研究所内の各事業の検討や情報の共有化が図れた。特に教育研究所と教育支援センターとは場所も離れていることから、通室してくる生徒の様子や支援の状況を全体で把握し、共通認識を深めるのに大きな役割を果たした。また、教育支援センターの運営についての支援策を考えるうえで効果があった。教育相談活動についても、事例検討を行うことができ、役立っている。

### 【今後の取り組み案】

月1回の所内会を原則とし、教育研究所内と教育支援センターの活動についての意見交換を行い、今後も情報の共有化を図っていくこととする。その中で各事業の検討を行うとともに、教育支援センターの円滑な運営に向けての支援策を考えていくこととする。

### (3) 研究所たより「しまんと」

#### 【実施時期】

第23号	4月27日発行	第30号	9月29日発行
第24号	5月11日発行	第31号	11月15日発行
第25号	6月9日発行	第32号	12月5日発行
第26号	7月19日発行	第33号	12月8日発行
第27号	7月24日発行	第34号	1月11日発行
第28号	8月30日発行	第35号	2月28日発行
第29号	9月7日発行	第36号	3月14日発行予定

#### 【目的・概要】

昨年度に引き続き、教育研究所が持っている情報を各学校に発信する手段として、教育研究所だより「しまんと」の発行に取り組んでいる。教育委員、町内の教職員、教育研究所運営委員に配布している。今年度も、各学校の取り組みや研修で行なったことを知らせることを中心に紙面づくりをした。

#### 【成果と課題】

月に1回程度のペースで発行することができた。研究所の活動や取り組みだけでなく、町内外の学校の取り組みを紹介できたことはよかったと感じている。参考になることがあればと、最新の教育情報や書籍の紹介もすることができた。

各小中学校の行事や校内研修などの取り組みの様子をもう少し発信できればよかった。

#### 【今後の取り組み案】

定期的に発行できるように取り組んでいきたい。また、書面の内容についても検討していきたい。



平成29年度 四万十町教育研究所スタッフ

所長	岡 澄子
研究員	中川 千穂
ドクター	澤田 由紀子
教育相談員	伊賀 修 山崎 一
教育支援センター指導員	
	佐竹 晋一 中越 幸香
スクールソーシャルワーカー	
	土居 裕子 齋藤 マサ
事務職員	笹岡 史弥

平成30年3月5日